グリーンな栽培体系への転換サポート による取組

中丹米振興協議会の取り組みについて

中丹米振興協議会 事務局 JA京都にのくに 営農経済部 農業振興課 澤田 誠

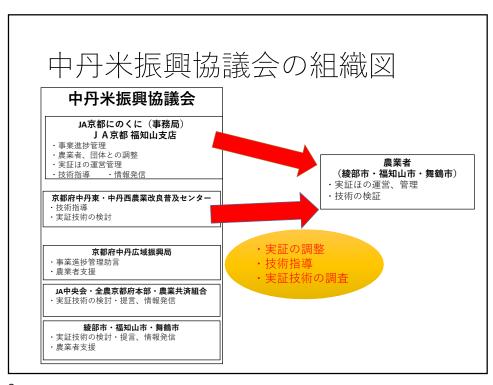
1

京都府中丹地域について

- ・京都府北部に位置、福知山市、舞鶴市、綾部市の3市で構成
- ・北部は日本海型気候、中部、南部は内陸型気候
- ・中山間地がほとんど、一級河川の由良川周辺のみ平地
- ・農地の海抜は1m~最大で300m
- ・水稲を基幹にブランド京野菜の万願寺甘とう・紫ずきんや お茶(玉露・碾茶)等を生産
- ・経営耕地面積 3,762ha (今和2年農林業センサス)







3

グリサポでの試験内容

- ・環境測定装置の設置により環境モニタリング
- ・光によるカメムシ防除
- ・秋耕・石灰窒素の施用での稲わら分解促進
- ・流し込み肥料での省力化
- ・機械除草の有効性(乗用除草機・アイガモロボ)
- ・京式部のいもち病抵抗性による薬剤の軽減
- ・緑肥栽培における水稲栽培

病害が発生する要因



発病の3つの要素(浅田1981改変)

- ・病害は環境の変化によって 必ず発生する
- ・抵抗品種でも完全ではない
- ・環境測定データから殺菌剤の無駄打ちが減らせないか?



個別に環境測定をするのではなく、公的なデータとして活用できないか?

5

クロップナビについて

- 「みどりの食料システム戦略」技術カタログ P20 長野県農業試験場作物部で記載
- 他県ではNOSAIの被害データとしても活用
- 長年の実績あり(2003年より)
- ・測定は気温・地温・降水量・濡れ・風速・日照 (メッシュ天気では天気・気温・降水量)
- ・試験は有効な設置場所・設置数を検討

クロップナビとは



クロップナビは実際の圃場や現地の気象データを測定することにより、 病害虫の発生との関係を調べるのに最適です。 (日、月、年単位のデータ化による予察や発生理論の構築)





測定したい農地に直接置いて、気温、降水量などの気象データや土壌成分値などの土壌データを収集し、作物の生育やいもち病などの予防に活用する装置です。通信機能をつけることで測定したデータをWEB上で確認出来るので、わざわざ現地に向かわなくても、農地の管理が出来ます。

7

使用目的 いもち病予察



20178 GR 20176 78



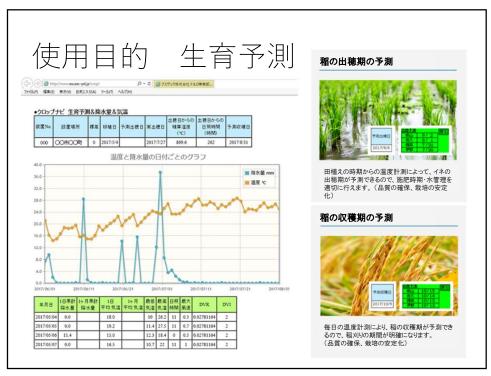
クロップナビを使用したいもち病予察

防除所からの葉いもち病の予察情報は、アメダスの雨量、気温、日射計データ等から予測する「Blastam理論」が一般的に使われています。クロップナビはこのBlastamの長野県版(長野県農政部)を搭載しています。

クロップナビは測定したい農地に直接置いて気象観測を行い、 葉いもちの予察を行いますので、実際の農地のデータで予測 をすることが可能です。

いもち病の予測は装置に付属している液晶画面で確認する ことができます。

また、通信機能のあるクロップナビでは、ホームページに表示することで、パソコン、スマホ、タブレット等の端末でも予測を確認することができます。ホームページ制作は当社で行いますので、表示の方法はカレンダー形式以外にも変更することが可能です。





クロップナビの結果

- 構造上安心して使える (草刈時の切断注意)
- ・いもち病発生予察
 - ・・情報を随時発行





11

クロップナビの課題

- ・出穂予測や刈取り予測は1圃場しかできない。 各地区に定点調査装置として設置したいが、 積算温度計算が出来ない
 - ・・・データダウンロードで計算可能
- 様々な品目の予察に使いたい基礎データがないとシステムが出来ない





カメムシキャッチャー開発秘話



朝、園地に行くと、防蛾灯の下にカメムシが集まって いる!!

夜蛾対策で設置した防蛾灯の直下にカメムシが集まっていることで光でカメムシが集 まっているのではと第一報はクレームのご連絡でした。

しかし、お話を伺うと、実はカメムシによる食害もありお困りでした。 そこで!集まったところを捕獲すれば良いと考えカメムシキャッチャーを開発 試験使用を得て、実用化へ

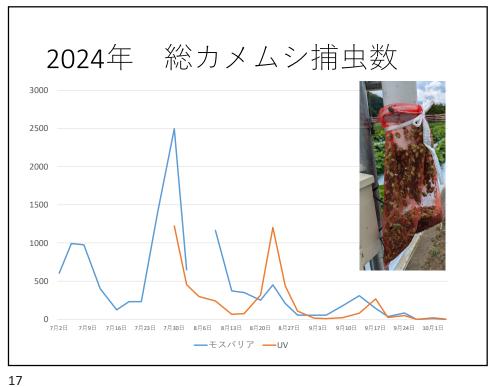
捕獲することで圃場内のカメムシの密度が減りカメムシの被害が軽減したと喜んでいただいています。

15

モスバリアの試験について

- 防蛾灯のモスバリアとカメムシキャッチャーを利用
- 果樹のカメムシ(チャバネアオカメムシ)は効果があるが、斑点米カメムシには未試験
- 設置の課題として、電源が必要
- 初年度はカメムシが捕まるか (穂孕み期から点灯)
- 2年目は光の種類とカメムシの数
- 3年目は紫外線(UV)





2024年 捕虫結果 (A圃場)

名前	モスバリア	(2023年)
チャバネアオカメムシ	1002	51
イネカメムシ	320	166
クサギカメムシ	287	31
クモヘリカメムシ	118	16
アオクサカメムシ	87	11
ヒメホシカメムシ	1	11
イチモンジカメムシ	1	

*谷の中心の水田圃場に設置

2024年 捕虫結果 (B圃場)

名前	モスバリア	UV	(2023年)
チャバネアオカメムシ	13942	7016	74
クサギカメムシ	3703	1068	21
アオクサカメムシ	795	157	17
ヒメホシカメムシ	338	1104	52
クモヘリカメムシ	164	42	17
イチモンジカメムシ	137	45	36
イネカメムシ	133	108	101

- *UVは途中から同一圃場に設置。照射時間なども変更している。
- *この圃場は枝豆圃場の近隣

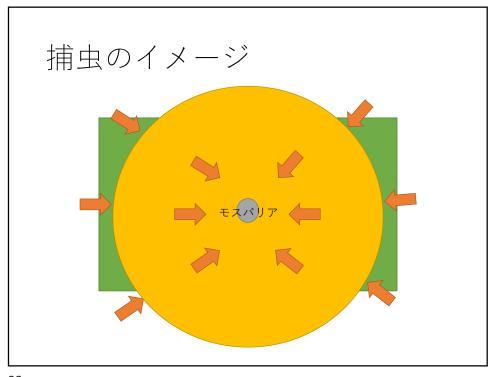
19

モスバリアの結果①

- ・良く捕まるカメムシは、チャバネアオカメムシ、 クサギカメムシ、イネカメムシ、アオクサカメム シ、クモヘリカメムシ
- ほとんど獲れないカメムシは、ホソヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなど
- モスバリアには3色(赤・緑・ミックス)あるが、 どの光でも同じような捕虫結果であった。
- UVは好みがあるが結果的にほぼ同じ種類のカメムシの捕虫

モスバリアの結果②

- ・カメムシが取れる時期と時間 水稲では出穂以降にカメムシは捕獲 点灯開始は多く、徐々に減少だが発生のピーク 点灯時(暗くなって)から数時間で捕虫
- カメムシが取れる範囲感覚的に光が当たっている周辺から飛行?(光は1キロ先からでも確認できる)



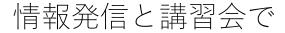
モスバリアの結果③

- 斑点米カメムシの完全な防除にはならない
- ・斑点米カメムシの全種類に未対応
- ・モスバリア付近の取り残し
- ・光の当たらないエリア
- 予察には使える













反省会・講習会などで発生状況やイネカメムシ発生の注意喚起

モスバリアの課題

- 光の種類や照度、範囲など更なる研究が必要
- 水稲だけでなくほかの作物でも効果を検証 (夜蛾対策は出来るので、アズキノメイガやアワ ノメイガなどの品目は多いに効果がありそう)
- 電源の確保として、マイクロ水力発電・太陽光パネル・ポータブルバッテリーなどの検証も必要
- 固定式ではなく、移動式でも

